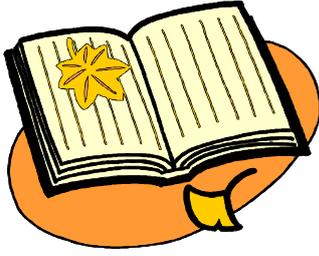


それゆけ！

としよかんだより



2010年10月

第42号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

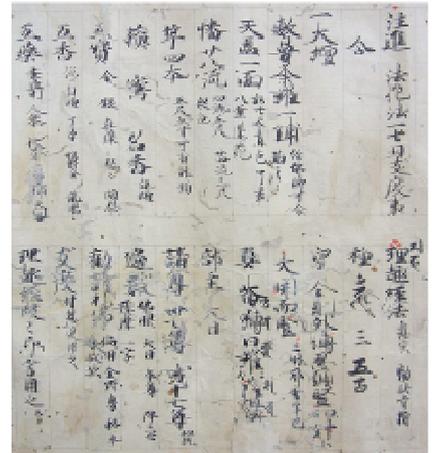
古典籍逍遙

【第八回】 図書館長 武内孝善

興然撰『四卷』第二 一卷

【書誌データ】

巻子装、一卷、鎌倉末期写、たて28・6センチ、全長1179・3センチ(本文25紙)、墨界、上下2段に書写す、楮紙、表紙(錦織・後補)、軸(後補一本軸)、虫損大



勸修寺慈尊院の二世・興然の撰述になる『四卷』四卷は、寛信法務・明海已講・大法房実任・助阿闍梨観祐などから受法した小野流相承の灌頂、ならびに諸尊法・諸作法など百三十七種を収録するが、今回ご紹介するのは、その第二巻目にあたる「第二」一卷です。

『四卷』は、「四卷書」または「本師口」ともいい、第四の奥書から建久五年(1194)六月に完成したことが知られます。ここで、第四の奥書を要約しておきましょう。①この四卷には、灌頂並びに別尊法・諸作法などすべて百三十七法を収録した。②これらは、先師法務御房(寛信)・已講明海・大法房実任・助阿闍梨(観祐)の四人から受法したものである。③みな小野流のものであり、私が集めて四卷の書とした。④いま弟子の律師御房(=勸修寺長吏の成宝)に付属し終わった。私が閉眼した後、これを見るたびごとに私を思い出してほしい。⑤そうして、撰述の年次が「建久五年六月十三日壬寅阿闍梨大法師興然」と記されています。

この写本は、残念ながら第二だけしか現存しませんが、その書体から鎌倉時代の末ころに書写されたものと考えられます。『国書総目録』によると、これまでに知られている『四卷』の写本は㊦東寺宝菩提院本と㊧智山専門学校本との二本だけであり、後者の書写年代は寛文七年(1667)です(前者のそれは未詳)。よってこの写本は、ほかに写本が二本だけと少ないこと、鎌倉時代に書写された写本であることの二つの理由から、きわめて貴重な史料といえます。『四卷』は、『大正新脩大蔵経』第七十八巻に活字化されていますが、その底本は㊧智山専門学校本です。内容を比較したところ、活字本では尊法名だけで、本文がまったく記されていないのに、この写本では本文が記されているものがあります(止風雨法)。いずれが本来の姿かは検討を要しますが、写本があつかえると、考察の対象が広がることはまちがいありません。

この写本(=『四卷』第二)には、法花経法・仁王経法など三十四の諸尊法を収録します。これら諸尊法は、種子・三昧耶形・本尊・印契・真言・護摩・注進状などの項目からなっています。同一の諸尊法で、受法した阿闍梨別に数種類を収載するものが少なくありません。この場合、尊法名の右肩につぎの略号を記して区別しています。「法」または「法務御房」は寛信法務、「已」は明海已講、「マハ(梵字)」は大法房実任、「禅」は禅林寺助阿闍梨観祐、「理」は中理趣房頼照から受法したことを示します。

諸尊法・諸作法の集大成に先鞭をつけたのは寛信法務であり、それを完成させたのが『覚禅抄』の選者・覚禅です。興然は寛信の付法の弟子であり、覚禅の師にあたります。『覚禅抄』は覚禅ひとりの力だけで成ったものではなく、その師興然、その師の寛信と三代にわたる史料蒐集の成果であったとみなされています。したがって、興然の手になる『四卷』は『覚禅抄』の成立過程を知る上からも貴重な史料であり、その鎌倉時代の写本があらたに見つかったことをご一緒に喜びたいと思います。

図書館の歴史(4) 図書館職員 木下浩良

図書館建設が始まった昭和2年(1927)当時、本学は旧制大学に昇格はしたものの、校舎や講堂・学寮などは、明治19年(1886)の開校当時のままで、老朽化した木造建築が無残な姿で金剛峯寺隣(いまの奥殿)にありました。

昭和2年12月、大学生全員は高野山では到底大学の完成はできないと、ストライキを執行して同盟休校に入りました。大門において学生集会を開き、大学の即時移転を決議します。運動の手始めとして、全国寺院に宣言・決議・依頼文を送付するばかりまで来ていました。

これには大学当局も驚きました。このままでは、真言宗内でようやく形が整った高野山・仁和寺・大覚寺の3派合同にひびが入ることになります。高野派は、大正14年に上記2派と合同して、古義真言宗を称していました。3派合同をして宗内を安定させて、高野山大学を宗団から独立した大学にした経緯がありました。

当局は、速やかな高野山大学の完成を大学生に約束して、今後一切の移転運動をやらないよう厳命します。図書館建設の背景には、このような大学だけでなく、宗派内の種々の問題が交差していたのでした。(つづく)

図書館通信

学生さん・一般の方どなたでも無料で参加していただけます！当日直接会場にご参集下さい。お待ちしております！

●第5回図書館文化講座●

演題：『世界遺産概論』 講師：日下明典さん(和歌山県世界遺産センター主査)

日時：10月21日(木) 16:40~17:40 場所：高野山大学本館2階205号教室

●貸出冊数の変更●

後期より、貸出冊数に変更になります！現在、貸出中の図書が変更後の冊数限度を超えておられる方は後期授業開始日(9/27(月))までにご返却をお願いします。(教職員・同窓生・学外者の貸出冊数は今まで通りです。)

研究所研究員 40冊→30冊 研究生 30冊→20冊 学部生・別科生 20冊→15冊

大学院生 30冊→20冊 聴講生・科目等履修生 15冊→10冊



図書館職員 森田江里子

今月の…ぴか！



お月見

お月見！といえば、楽しみな行事の一つですよね！

毎年「お月見って今年はいつだろう…」と思われる方いませんか？私はその中の一人です。

お月見は旧暦の8月15日で、ちょうど満月になります。その日を「十五夜」と言い、月見団子などをお供えします。その日に里芋をお供えすることから「芋名月」ともよばれています。

お月見の日って決まっていたんですね！ちなみに、旧暦の9月13日は「十三夜」とよばれ、栗や豆を供えることから「栗(豆)名月」とよばれるそうですよ！



参考にした図書は、飯倉晴武編著『日本人のしきたり』と中山圭子著『事典和菓子の世界』です。

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	29	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6

	9:00-18:00		13:00-18:00
	9:00-17:00		9:30-16:30
	9:00-19:00		閉館

切り取り

(編集後記)

風が心地いい季節になりましたね。「お月見」で紹介した「十五夜」が今年も9月22日、「十三夜」が10月20日になります。綺麗なお月様が見えるといいですね！ (石原)

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町高野山385高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835

Fax:0736-56-5590

E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp

